

市政に対する一般質問

企業人としての経験を生かした行財政改革の断行とは

みらい政策会議 近藤 秀二

問 市長は常々、企業人としての経験を生かし、企業経営の理念、民間経営感覚を積極的に取り入れながら、行財政改革を断行すると表明している。現行の縦割り・小割りの執行組織では、高度な行政需要に的確かつスピーディーに対応できないため、予算や人員などの経営資源の管理運営に弾力性を持たせるとともに、外部委託や企業・NPOと業務連携を深めるなど、無理・ムラ・無駄を省き効率のよい行政を目指すことは大きな課題であるが、その理念とはどのようなものか。今回の予算編成に当たって、どこに取り入れたのか。

答 限られた財源のもと、多様化している市民ニーズに迅速、的確に対応するためには、企業の経営理念である顧客重視、コスト意識、柔軟な発想による経済性、効率性を追求した経営努力を行政運営に取り入れる必要があると考えており、企業経営手法を積極的に導入し、より一層の行政改革の推進を図り、市民福祉の向上に努めていく。今回の予算は、無駄を削り将来の財政基盤を安定させるための起債の削減や基金の積み

立て、地域に密着し生活面を重視した政策予算を立てたものである。(他に「職員の意識改革」「職員的能力向上」「小園団地遊水池について」を質問)

蓼川の放置車両問題等基地周辺にある問題点の解決を

あやせ市民会議 増田淳一郎

問 蓼川三丁目十六番に横浜防衛施設局が管理する在日米軍所属要員専用駐車場があるが、今現在、廃車車両の不法投棄や民間車両の無料駐車場として使用されている。地元自治会から、ふれあいとく等で問題提起されていると思うが、防衛施設局には伝えてあるのか。仮に市で土地の借用が可能になった場合の活用は。県道への右折が困難な光綾公園横の出入り口は、自衛隊員など大勢の通行があるが、信号機は設置できないか。また、基地正門前で警備している警察隊員の休憩所を兼ねた交番の設置を国・県に働きかけないか。

答 蓼川の土地については、平成十三年八月のふれあいとく以来、数回にわたり自治会より放置車両対策等の要望があり、国及び米軍に対応を要請し、柵を設置する旨の回答を得ている。仮に借用できた場合には、地元の要望等を踏まえ、有効活

用を検討したい。光綾公園の出入り口は、県道西側に歩道がなく信号柱を立てる場所がないことから、信号機の設置は困難な状況だが、引き続き県へ要請していく。正門前の警備は、テロ攻撃を警戒しているものであり、永久的な警備体制ではないので、交番の設置は不可能と考えている。(他に「コミュニティバスについて」を質問)

今の時代に休日歯科診療所を開設する必要があるのか

みらい政策会議 安藤多恵子

問 休日における歯科診療は平成五年より始まったと聞いている。現在では当時と違い、民間の歯科医が市内に二十九医院存在しているが、そのうちいくつかの医院が休日にも診療を行っている。さらにかかりつけであれば休日の診療に対応してくれるところもある。また、休日診療に限らず、夜間や早朝の診療など、さまざまなサービスが民間医院により提供されることから、このような時代に、あえて休日歯科診療を公の立場として設置する必要があるか。

答 休日歯科診療所の役割は、休日に市民が救急の場合、身近な場所で速やかに適切な医療を受けられることに加え、市民の健康と安心の提

供という救急医療体制の観点から開設されている。最近では、八医院が日曜や祭日にも歯科診療を行っているが、年末年始については開院していない。そもそもその役割が応急措置であり、以後は地域の歯科医院で受診してもらうことになる。また、災害時における救急医療の拠点でもあるので休日診療所は必要であると判断している。

(他に「ホテルが飛びカワセミが舞うまちづくり」にむけて」「災害ボランティアの活動を位置づけていく」考へはないか」「老人会に青年部を創設してはどうか」を質問)

子ども達の安全を守るため地域住民との密接な連携を

新政会 綱嶋 洋一

問 現在、本市では学校の安全対策の強化が着々と進んでおり、一定の評価ができるが、今後は、現場の教職員、保護者、関係団体等の意見を取り入れて、本当に現場の安全が確保できるように対策を立てる必要がある。それには、まず地域社会全体で学校や子ども達の安全をめぐる危機的な状況を理解し、子ども達の安全を守る体制づくりや命の重さを学ぶ機会を設けるなどの取り組みが重要であると考えている。そこで、本市

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をただすことができるものです。
3月定例会では、3月16日・17日の本会議で17人の議員から質問が行われ、終始熱の入った論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です(掲載は質問順、6面まで続きます)。

総合保健福祉センター整備構想の取り組み状況は

あやせ市民会議 青柳 慎

問 今までの綾瀬市の街づくりには、近隣市では見られない防衛予算による事業として市道改良や公園用地取得等に毎年その多くが使われている。しかし、社会福祉施設整備、産業の振興に寄与する施設等については近年ほとんど使われていないように見受けられるが、箱物施設をただ見送ってばかりではよいのだろうか。そこで、これからの笠間市政が、市民に優しい福祉に取り組むためにも、

市民に分かりやすく、市民ニーズに合った保健福祉の一体的なサービスを展開できる施設整備が最も求められているが、総合保健福祉センター整備構想への取り組み状況は。

答 市民が待ち望んでいる総合保健福祉センターについては、少子・高齢化の進展や核家族化により、多種多様なニーズに対応した福祉サービスの提供が求められており、保健福祉、医療の全般にわたる総合的な対応が必要となっている。そこで、本市では新時代あやせプラン21に、市民ニーズに対応したサービスを提供(仮称)総合保健福祉センターの整備を位置付けたものであり、新年度から内部検討委員会を設置し具体的な調査研究を進めていく。

(他に「バラの花でまちづくりは」「安全・安心のまちづくりは」を質問)



綾瀬の地粉を使ったうどんづくり講習会。手こねは水加減がポイントの一つです。この後、地元の新鮮野菜で作ったけんちん汁にできたての手打ちうどんを入れておいしくいただきました。4月15日、保健医療センターにて。